

あたたかい子  
かしこい子  
たくましい子

学校だより

つよし

—第9号—

令和3年5月31日  
平戸市立津吉小学校  
文責 校長 田川定司

## 東京オリンピックまであと2か月

いよいよ「2020年東京オリンピック」が迫ってきました。…といっても、長崎に住む私たちにはあまり関係がないようにも感じます。しかし、前回1964年の東京オリンピックを振り返ってみると、その時を契機に私たちの生活もかなり変化しました。有名などころでは、東海道新幹線開通などがよく取り上げられますが、もっと私たちの生活に身近なところと言えば、トイレの前にある男子用か女子用かを示すマークや、非常口のサインなど、今やいたる所で見かけるマークも東京オリンピックで言語の問題を解決するために取り入れられたものでした。それから、ゴミ収集システムもオリンピックを契機に、景観上、衛生上の問題から改善され、現在のような集積所を決められた日時に収集車が回るシステムができたそうです。

こうして振り返ると、2020年のオリンピックも、私たちの生活に何らかの変化をもたらしても不思議ではありません。私たちの社会の、何がどんな風にならっていくのか、少し楽しみな気もします。子供たちがこれから生きていく社会は、今現在の延長ではなく、数歩先まで成長した未来社会であることは間違いありません。そんな社会で自分らしさを発揮しながら幸せに暮らすことができるようにするには、子供たちにどんな力が必要なのか、学校はどんな役割を果たすべきなのか、社会の変化を見届けながら考え続けていかなければならないと思っています。

さて、もともとのオリンピックはギリシアの神様にささげるお祭りの行事だったそうです。現在のオリンピックの形は、1896年、フランス人のピエール・ド・クーベルタン男爵が呼びかけ、ギリシアのアテネで開催されたことから始まりました。オリンピックは、スポーツを通じて、フェアプレーの精神を学び、心と体を鍛えること。そしてシンボルマークの5色の輪（わ）が重なり合う様子は、世界の5つの大陸が一つになり、国や文化などの違いに関係なく互いに理解し合い、友好を深めて世界平和につなげていこうという願いが込められています。



オリンピック選手の中には、小さい頃から「オリンピック出場」を目標にして練習を重ね、夢をかなえた選手がいます。津吉つ子のみなさんの夢は何でしょう。その夢を実現するためには、何が必要でしょうか。大きな目標を達成するためには、目の前の小さな目標をたて、努力を積み重ねることが大切だと思います。毎日こつこつと一生懸命に取り組み、将来、みなさんの夢をかなえる力を蓄えてください。



# 平戸市のオリンピック聖火リレー

5月8日（土）に平戸市内でも聖火リレーが開催され、下記のように報道されました。

長崎県内の聖火リレー最終日の8日、平戸市でアンカーを務めた杉山元太さん（14）＝諫早特別支援学校中学部3年＝は、トーチを固定した車いすで前へ進んだ。父、勝男さん（63）に支えられながら、四つ子のきょうだい待つゴール地点のオランダ商館前まで希望の灯をつないだ。

2007年3月、四つ子の末っ子として生まれた。早産で帝王切開して取り上げられた時の体重はわずか1100グラム。兄や姉と違って生まれつき肢体などに障害があった。身体障害者手帳は総合的に1級。誰かの手を借りないと何もできなかった。

市立平戸小入学後も、教諭や友人らの協力なしでは教室移動も難しかった。そんな不自由な生活を送る中、福祉関係者らと一緒にリハビリは続けてきた。きつかったけれど、少しずつ前向きにもなれた。迎えた卒業式。車いすから立ち上がり、自らの足で歩いて証書もらった。

中学は自立を考えて、諫早特支に進んだ。高校卒業までの6年間、親元を離れた下宿生活という道を家族で選択。学校へ送り届けた日、父は「たくさんの人に見守られて育てている。一人前になって就職して社会に貢献してもらえれば…」と願って、泣いた。そんな家族の心配をよそに、元太さんは一歩一歩成長した。今では寮で盛り上げ役的な存在にもなった。V・ファーレン長崎の応援や、14年長崎国体の総合開会式を観覧するなどスポーツも大好き。現在はポッチャに挑戦中だ。

聖火リレーは平戸市から誘ってもらった。「国籍、性別、障害を越え、すべての人が主役になれる聖火リレーを担当することは、今後、僕が生きていく中で糧となる。被災地の人々にも元気を届けたい」。素直な思いをトーチに込めた。

コロナで苦しんでいる人がいる中、出走することに不安や迷いもあった。「でも、父がいつも自分を頑張らせようと勇気づけてくれた。だから成長できた。その姿を見せたかった」。古里の沿道からの「げんちゃん、がんばれ」という声援の中、父と一緒に手を振りながら前へ進んだ。

スタートから200メートル先のゴール地点。きょうだいの元紀さん、心勇さん、心美さんの姿もあった。「元気で心ある人に育ててほしい」という願いを込めて名付けられた子どもたち。日が傾きかけたオランダ商館前で、家族の間に笑顔の輪が広がった。

【 5/9 長崎新聞より 】



## 6月行事予定

- 1日（火）青少年劇場（津吉小）
- 2日（水）フラワーロード
- 3日（木）・4日（金）野外宿泊学習
- 4日（金）社会科見学（3年生）
- 7日（月）～11日（金）家庭訪問
- 13日（日）平戸市少年の主張大会
- 14日（月）～20日（日）教育週間
- 14日（月）プール開き・クラブ活動
- 15日（火）ようこそ先輩
- 16日（水）クリーン作戦
- 18日（金）授業参観・語る会・懇談会  
情報モラル研修会